陳 情 文 書 表

受理番号	陳情7第21号	受理年月日	令和7年6月6日
件名	目黒区民センター再開発の再検討・見直し作業の中に、他区や地方で建物保存して再整備に取り組んだ例を行政として、議員も含め見学・調査して、反映を求める陳情		
<p>【陳情の趣旨】</p> <p>今回の目黒区民センター再開発計画は、年頭の発表では、一旦中断し、事業者公募は行われないままになっています。区として、2年間にわたり、区有施設見直し計画を検討、並行して、それに対応して、区民センター基本計画も見直すこととなっています。現在、その作業に注力集中していることと思いますが、私達区民はその過程を知る由もありません。</p> <p>その発表前後の、1月24日、施設更新・DX等調査特別委員会において議論があった、区民センターの「全建築の取り壊し・全建築保存・全面改修・一部改修などの選択肢」はどう取りあつかわれているのか、大いに気になるところです。中断の原因である、事業者側の理由、建築資材、工事費、人件費の高騰は、最近の新聞やマスコミで、頻繁に見られる再開発計画の破綻と同一であることが明らかです。</p> <p>中断前の最終計画は、全建築を取り壊し、種々の機能を複合化、集約化、多機能化、さらに高層マンション共存、民間事業者へ事業委託というコンセプトのもとに新築する、というものでした。計画作成の過程で引用されている、同様のコンセプトで実現した例を参考にしていると思われます。であれば、再検討の過程で、ぜひとも、建築を保存し、耐震化やバリアフリー化、リモデリングなどの改修で取り組む例からも学ぶ機会を持って欲しいし、その場合の区財政負担度合いも、最終計画案と比較してほしいと思います。</p> <p>見学・調査の参考例として、板橋美術館、伊賀市庁舎、東京国立近代美術館等をあげます。</p> <p>最近の潮流として、「アダプティブ・リユース（適応的再利用）」が再開発にとって変わろうとしているとか。既存建築の歴史的価値保存と経済的合理性を両立させる、SDGs的にも先駆的な試みに期待します。</p> <p>【陳情事項】</p> <p>区民センター計画、見直し・再検討の過程に、他区や地方で、建物保存して再整備に取り組んだ例を行政として議員と共に見学・調査して反映し、その内容をすべて公開してほしい。</p>			